



2023年4月号
2023. 4. 30
第62号
発行：わらびじゅく
笑楽日塾



・荒井塾長あいさつ



【韓国のことろ】

季節はいつのまにか初夏になっていた。4月13日笑楽日塾の令和4年度総会の後で、塾生がお花見の写真報告をしてくれた。王子の桜、石神井川の花筏、熊谷の桜などZoomで見ているだけで、すがすがしい気分になった。

日本のプロ野球も大リーグも始まって世の中は明るくなっている。残念なのは4月15日和歌山市内の漁港で、岸田文雄首相の応援演説会場で24才の犯人が鉄パイプ爆弾を投げつけたことだ。幸い怪我人はいなかった。こういう事件で私が心を痛めるのは、犯人は先々の人生をどのように考えて行動したのか、家族や親戚への迷惑は考えなかったのだろうかということだ。



内外の事件に目を奪われていると本質的な問題を忘れてしまう。
本質的な問題とは私が好きな韓国との関係である。

私の主張を述べます。
岸田総理には一日も早く訪韓していただきたい。

私は韓国のユン大統領が3月に来日し、悪化していた日韓関係の扉を開けてくれた事に大きな感謝と拍手を送ります。

今回のユン大統領の訪日前に韓国の世論は6割が反対していました。日本は大歓迎しても、韓国の人にはまだまだ冷たい心が開けないのです。日韓首脳会談に於いて岸田総理から慰安婦や徴用工へのお詫びの言葉がなかったことに多くの韓国民が落胆していたと報じられました。

岸田総理には早く訪韓していただきたい。その際、「植民地支配の反省やお詫びを盛り込んだ過去の談話を【引き継ぎます】】というだけでは足りない。原告の心に響くような温かい言葉を述べていただきたい。

被告の日本企業が関係改善のための基金に加わるなど出来ることはあるはずですが、
韓国の世論は特に日本の指導者の発言や態度に敏感です。

2015年の慰安婦合意の際は、安倍首相が元慰安婦への手紙について【毛頭考えていない】と
国会で答えた事が大きく報じられ、反発が広がりました。相手国での受け止め方にも配慮がいらいます。

それはどうすれば良いでしょうか。

企業のトップが訪韓して、韓国の人たちへ「戦時中は迷惑をかけ、申し訳ございませんでした」と
真心を示す挨拶だけでいいのです。

今回のユン大統領の訪日はこれからの新しい日韓関係を築いていく第1歩です。ユン大統領の
決断に今度は岸田さんが答える番です。

一日も早く訪韓して、韓国の人たちの前で素直なお詫びの心を示して下さい。この機会を逃さず、
企業も国民も韓国の人たちへ温かく接して行きましょう。韓国の人には日本からお金を欲しいのでは
ないのです。心からの親切な対応が欲しいのです。

ユン大統領は次のように語っています。

「日本は宿命の隣人で、韓日関係は今や過去を乗り越えなければならない」。

「日本は既に数十回に亘って歴史問題での反省と謝罪を表明している」

この信念とぶれない性格から見ても、対日改善路線を突き進んで行くに違いない。

この広い心を持った大統領に岸田さんは早急に答えるべきです(2023年4月20日)。



完



笑楽日塾4月 Zoomオンライン塾会報告

今月は総会のお話し、長谷川氏の件と新井邦夫さんと星さんの散策報告がありました。

Zoom塾会

期 日: 2023 年 4 月 13 日 19 時 30 分~20 時 25 分

会 場: 各自自宅

出席者: 内田、先崎、吉田、新井(邦)、新井齊、八木、星、南、清藤、荒井

欠席者: 高木、菊地、荒川、長谷川

1. 令和 4 年度 笑楽日塾決算の監査報告

4 月 6 日 14 時~14 時 30 分、シティタワー蕨の 2 階ロビーにおいて、令和 4 年度笑楽日塾決算の監査が吉田氏により行われました。

出席者: 吉田監査、八木、先崎、荒井

先崎氏から総会資料原案が説明されました。

同日 17 時先崎氏が内田氏を訪問し、監査をお願いしました。

2. 令和 4 年度笑楽日塾 総会(19 時 30 分開会)

先崎氏が作成された総会資料に基づき 2022 年度事業報告、決算報告、2023 年度事業計画、予算計画を審議し、満場一致で承認されました。

特別注意事項

長谷川昇塾生について

(1) 令和 2 年度、3 年度、4 年度の年会費@1,500 円が未納である。

(2) 同氏へは塾長から、他の塾生宛の一斉メールの他に、要請メールを出している。

(3) 今後の処遇について(塾長に一任された)

塾長判断: 本人から申し出があるまで休眠塾生として扱う。

2024 年 3 月末までに連絡が無ければ、退会者として扱う。

*2020 年 11 月 26 日に次のようなメールがあった。これが最後の通信記録。

「いつもありがとうございます。さて本日は、明日早出の為不参加です。狛犬講座も、

来年はむつかしいのです。ズームは、やりません。落語も東京には、行けません。

当分は、外出控えています」。

総会はこれにて終了した(19 時 45 分開会)。

3. 新井 邦夫塾生からの報告

熊谷と深谷 さくら探訪



2023年4月13日
笑楽日塾 新井邦夫

3月29日(火)青天の中、熊谷、深谷方面へお花見に出かけました。

青空+うすいさくら色の桜並木+真っ黄色な菜の花+緑の下草を満喫された様子が
パワポで報告されました。

景色は、空の青、さくらの桃色、菜の花の黄色、草花の緑、そして自然が大好きな
紳士、淑女の8名で散策をした最高の1日でした。

4. 星 広行塾生からの報告

飛鳥山の渋沢史料館と石神井川の花筏



2023年4月2日(日)東京は北区王子の飛鳥山にある渋沢史料館見学と、王子駅前から板橋区の東部東上線中板橋駅までの石神井川に散った桜の花びら、花筏を見るため歩いてきました



2023年4月13日
笑楽日塾 星 広行

星 広行氏からは「王子～板橋近辺」を散策した報告がありました。

4月2日王子・飛鳥山/渋澤記念館～石神井川～板橋に至る歴史と花見のコースを散策された様子がパワポで報告されました。

⑦ 寺院・大仏

左の写真は紅葉橋近くの金剛寺。この付近一帯は徳川八代将軍吉宗の命によりカエデ100本が植樹され、晩秋の金剛寺は「紅葉寺」として今も親しまれています。右の写真は観音橋近くの谷津大観音（聖観音菩薩像）。世界平和、子孫繁栄、諸願成就の願いが込められています。



⑬ 桜並木-1

板橋を過ぎると「石神井川の桜並木」と呼ばれる辺りで、両岸から川の中に垂れた桜が一層あてやかになります。しかし、今年は少し散り過ぎてしまいましたので2016年4月6日に写したものをさせていただきます。



桜並木 2016年

5. 荒井塾長からテレビ放送の案内がありました。



平成 21(2009)年 3 月 13 日、寝台特急「富士」と「はやぶさ」のラストランで、東京は鉄道ファンの熱気に包まれていた。ブルートレインの愛称で親しまれた、東京と九州を結ぶ長距離寝台特急がこの日で引退を迎えたのである。



そのブルートレインが引退後マレーシアへ渡って復活した。それを一人で支えた男がいた。ブルートレインがマレーシアに到着してしばらく経った、平成 23(2011)年 1 月。鉄道車両メーカー・日本車輛製造 OB の荒井貞夫のもとに、国土交通省から一本の電話があった。これはブルートレインがマ

レーシアで復活した物語である。その復活の歴史を語る番組【鉄道伝説】が出来ましたのでご覧下さい。

BS フジテレビで 5 月 6 日(土) 昼 13 時~13 時 30 分に放送されます。

完



「シニアの風」

(順番制で行います。2023年5月「シニアの風」投稿は菊地正浩さんですので宜しくお願い致します)

4月担当は清藤さんですが、別紙で配布しますので閲覧をお願いします。

さて、十牛図も残り、3枚です。
今回は第7段階・あるがままに生きる「忘牛存人(ぼうぎゅうぞんじん／
ぼうぎゅうそんにん)」からの続きをお話したいと思います。

第8段階 空白となる「人牛俱忘(じんぎゅうぐぼう／にんぎゅうぐぼう)」

今回の「十牛図」には、何も描かれていません。第1図からずっと描かれてきた旅人の姿も見えません。まさに「空(くう)」です。自分の都合も、立場も知識も、経験も、すべて空っぽになった状態です。

さて、「空」とはなんですか？

こんな話があります。水があふれんばかりに入ったコップがあるとします。このコップで、別の飲み物が飲みたいとき、どうしますか。水をほかの容器に移したり、飲んだりして、とにかくコップの中を空っぽにすることでしょう。コップの中の水は、人のこだわりや価値観です。この、こだわりや価値観を、いったん空っぽにしなければ、ほかの考え方を受け入れたり、ものごとを自由に考えることはできない、というのが「空(くう)」の教えです。こだわりや価値観は、ときに迷いをふりはらったり、行動のよりどころになったりする面もあるように思いますが、こだわりも価値観も、絶対に変わらないものかといえば、自分の都合や人の意見によって変わってしまうこともあるでしょう。

こんなふうに、自分では確かなものだと思っていることでも、じつは案外たよりないものだったりするのです。たよりないものに、いつまでもしがみついているはいけません。それは、川に流されているのに、自分で泳いでいると思ひこんでいるようなものです。旅人は、自分のやるべきことは何か、幸せとは何かを探していました。「さとり」とは、その答えが自分のなかにすでにあつたと気づくことです。しかし「十牛図」は、その「さとり」でさえ忘れなさいと説いています。ひとたび目標や幸せに気づくことができたなら、もはやあれこれ考える必要はないからです。

夏目漱石の手紙の中に「馬ではなく、牛になる」という件があります。漱石は、「馬になりたがたる」というのは、人は早く、俊敏に、優雅に、突き進んでいく、少しでも格好良く、少しでもはやく目的地へ。

漱石は牛に対してこんなイメージを持っていたようです。「あせらず、深く考え、根気よく」、悪く言えば、「のんびりしていて、遅い」ということかもしれませんが、それは言い換えれば、「時間がある、余裕がある、考えることができる」ということにもなります。たしかに、あせって進んでしまつては、周りの景色をゆっくり見ることはできません。馬のようになれば、目的地へははやくたどり着くことができるかもしれませんが、足元にある綺麗な花を踏んでしまつたり、大切な人からの声がけを聞き逃してしまつたりしてしまうかもしれませんね。「うさぎとかめ」の寓話にも似ていますね。

次回は第9段階 本源に還る「返本還源(へんぽんかんげん／へんぽんげんげん)」をお送りします。

～続く～



「シニアの風」

清藤 孝

葉山海岸の 小さな旅

令和五年二月十一日、全国的に快晴の日、思い切って蕨駅を発ち赤羽、そして湘南新宿ラインに乗り、逗子駅に降り立った。心地よいそよ風、葉山御用邸方面への京急バスは十五分間隔で非常に便利だ。バス停で少し待ったが、すぐ乗車。過って訪ねた「平家六代將軍塚」を通り過ぎ「鎧摺」（あぶずり）で降車。昔から有名な「日影茶屋」の目の前が標高二十五mの旗立山。上り道は短いもののワイルドで情緒たっぷりの登り道。頂上は台地となつて、視界が開け、ここから冠雪の霊峰富士山が見事な姿を現し、空スカイブル、湘南の海はあくまで蒼く、そして、彼方には江ノ島が海に浮かんでいる景観の素晴らしさ。そよぐ海風。自然の恵みをいただく。その昔、治承四年（一一〇八）、頼朝が石橋山で平家打倒に決起した

時、加勢に向かう三浦一族が出立した浜辺はすぐ目の前にあった。そして加勢の途中、頼朝敗走の報に接し引き返し、今度は、情報の混乱する中、少しの行き違いで、「畠山重忠」の軍勢と戦いを交わした場でもあった。



すぐ隣が近代的なお洒落な葉山マリーナ。素敵なヨット群が繋留され、これから帆を張りセーリングに行くヨット。様々の光景が見られる。マリーナプラザには、これも素敵なテナント店が入っている。プラザ入り口には「鈴木三郎助翁」の胸像。説明板を読むと、ここは「味の素」創業の「鈴木家」の土地で、昭和三十九年の東京オリピックに合わせて建てられたとか。また、鈴木三郎助翁は京急鉄道の社長であったとか。初めて知るばかりで少しは知識の蓄積ができた。驚きの発見であった。

そして、レストラン・マーレのケーキセットを富士山を眺めながらテラスで時間を忘れ賞味。至福の時であった。



鈴木三郎助翁

小休止の後、葉山海岸に降り、岩場や砂浜の入り混じった浜を散策。波穏やか。時おり迫るさざ波に心和らぐ。



葉山海岸の岩場

遠くの防波堤には赤色の「裕次郎灯台」も見え、夏の海水浴シーズンと違う静かな砂を踏みしめての散策であった。

浜辺の終わりは、少し海に突出した小さな半島。ここは「森戸神社」の境内。森戸神社は、これも頼朝が源平合戦に勝利し、この地

を訪れた時、「三嶋大明神」の分霊を勧請しお祀りしたものと云う。

また、海にさらに突き出た岩場があり、その岩に「千貫松」という松があり珍しい光景を見せている。その謂れは、かの「和田義盛」が、頼朝の問いに答えて、「千貫の価値がある松と呼んでいる」と答えたという。なんとも微笑ましい話と伝わる。



千貫松

この土地はまた、石原裕次郎がこよなく愛した処という。その証拠に石原裕次郎を顕彰する兄の慎太郎が書いた文言が刻まれたレリーフもあり、昭和という時代を駆け抜け楽しませた時代の寵児に想いを馳せる。



裕次郎のレリーフ

昼食は防波堤に腰掛けていた。時折天空を舞うトンビの急降下が見られる。友と語りながらの弁当、突然バサッと目の前に風があり気が付くと弁当の中身が取られてしまった。これも葉山海岸の思い出と濃く残ることとなった。

一休みの後はバスに乗り「しおさい公園」で降車。



葉山しおさい公園

ここは「昭和」の年号誕生の地という。それはもとは大正天皇の静養地であり、また天皇の崩御された所でもあった。崩御された時、皇太子であった昭和天皇が傍におられ、崩御と同時に年号の「昭和天皇」として即位されたという。

その後、御用邸の付属地となったが、「しおさい公園」となり、

昭和天皇の研究された相模湾の海の生物の標本が展示されている。建物は自然環境を重視し地上一階地下一階で、その地下部分が見事な昭和天皇の研究成果の標本が見え充分に展示されている。

庭園には、平成天皇と美智子妃殿下が地元の小学生たちと一緒に植樹したという紅白の梅も今が盛りと綺麗に咲いていた。

また、「噴井（ふけい）の滝」もこの庭園に彩を添え見事だ。



噴井の滝

「茶室一景庵」もあり、管理人の話では、美智子妃殿下は度々訪れ、訪れた時には、管理人たちに深々と頭を垂れ労われたという。

見学後は、裏口（土・日開放）より元宮家の広大な松林を持つ土地に建つ「神奈川県立近代美術館」へと向かう。

海は穏やかで湖のようにきらきらと波が光って見えた。起伏のある公園内を通り、美術館と相模湾、それと霊峰富士の嶺、江ノ島、これだけでも素晴らしい絵となっている。敷地内の崖を利用した眺望抜群の小さなレストランがあり、お茶をしながらの静謐な時を忘れる心地をいただく。



展望抜群レストラン

ここから、山側に建つ今日最後の訪問地「山口蓬春記念美術館」へと歩く。生前の住まい、アトリエ、庭園を、東海が管理し公開している。



山口蓬春記念美術館

山口蓬春画伯が拝戴した文化勲章やデッサン、絵画、画室（当時のまま）など見学。山腹に建つ記念館はこちらも眺望抜群な日本家屋。瀟洒な庭園も四季の花で飾られるという。

あとがき

お天気快晴という幸運に恵まれ、自然の素晴らしい景観とそれに織りなす人間の素晴らしさを満喫した一日でした。

完